

らい、うすころばしと弥五六にも食べさせてやろうと、重いごちそうをさげたので踊窪へつのが少しばかりおくれてしまった。

うすころばしと弥五六は待ちきれずに二人で踊りはじめた。

矢田野の権坊猫こなくつちや

さつぱり 調子がそろわねえ

しつちよいさ しつちよいさ……

何回も踊ってつかれてしまったうすころばしと弥五六は、「権坊猫は飽きてやめたんだろう、おれらもやめよう」といつて帰ってしまった。権坊猫が踊窪についたのはうすころばしと弥五六が帰って間もなくであった。権坊猫は、「せっかくご馳走を持って来てやったのに、なんだうすころばしと弥五六は飽きてしまったのか、ほんじゃおれもやめつべ」といつて踊らなくなった。

(話者 内山正雄)

千海寺の妖怪

《新 田》

榊衝新田に昔、千海寺という寺があった。住職の老僧が死んで、留守居の者が住んでいた。

夜な夜な、何者かが雨戸を叩く。その音がズイトンボーというように聞こえた。留守の者は、非常に恐れて、この事を村人に知らせた。村の血気にはやる五、六名の若者たちが、「それは面白い妖怪を見